令和４年度　関市スポーツ推進審議会　議事録（要約）

日　時：令和４年８月２５日（木）１４時００分 ～
会　場：アテナ工業アリーナ　２－２会議室
参加者：名簿のとおり（全員出席）

１．開会あいさつ（ 協働推進部長 ）
（協働推進部長）
　第 2 期関市スポーツ推進計画は今年の 3 月に策定され、方向性としては第 1 期と大きく変わりはないが、基本目標の中に「つくる」「はぐくむ」を追加しました。中身に入るとラグビーやカローリング以外に新たなスポーツブランドの確立やスポーツの聖地づくりを行います。また、スケートボードやボッチャなど新たなスポーツへのチャレンジも記載されています。目標としては「成人の週 1 回以上のスポーツ実施率」を令和 2 年度 48.6%から令和 13 年度に 70%にすることを掲げています。これを達成するためには新たな取り組みが必要であると考えます。本日は令和 4 年度の計画をお示しするのではありますが、その中でも新たな取り組みについてご提示させていただきます。

２．委員の紹介
　各委員が自己紹介

３．会長・副会長の選出
　会　　長　喜久生　明男

　副 会 長　川嶋　英司

４．会長あいさつ
（会長）
　各委員の自己紹介を聞くと、非常に頼もしく感じます。ぜひこの審議会でたくさん意見をだしていただきたい。2 年間よろしくお願いします。

５．議　事
（１）令和３年度 関市スポーツ推進計画の事業報告について　・・・【資料１，２】
事務局より説明
【意見・質問】
（会長）
　資料 2P3、第 1 期スポーツ推進計画では「1 市民 1 スポーツ」という目標を掲げていたが、第 2 期では「市民ひとり 1 スポーツ」に変わったことを、委員の皆様はご確認ください。次に P17 スポーツボランティアの育成について、いいことではあるが資格制度や誰がどの資格を取ったのかを把握しているのでしょうか？
（事務局）
　スポーツボランティアについては資格制度はございません。
（会長）
　将来的にスポーツボランティアを育成するためには、誰がどういう資格を取得し

た等を広報（周知）していただくと、自分も取得してみようと思う人も増えるのではないかと思いました。資格ではないが講習会（救命救急等）についても P19 の「スポーツ推進委員の資質向上」にもつながるが、誰がどの講習を受けたかとかを、氏名をだして、実績として残してもいいのではないかと思います。

（委員）

スポーツボランティアについて、中部学院大学の福祉系の学生はボランティア活動に非常に興味を持っている。機会があればやってみたいという学生も多い。

全体を通して、この時期（コロナ過）なので、イベントの中止が続いても仕方がないとは思うが開催の可否はどの時点で誰がしているのかいつも疑問に思います。ふどうの森トレイルランのように、絶対に開催するんだという気概で大会時期を延期して実施し 280 人の参加者を集めた。イベントをやったら人は来るんだというのを実感しています。中止にするのは簡単だが、やり方を変えて実施できる方法で考えていくことも大事ではないかと思いました。

（委員）

スポーツ推進委員では出前講座をやっていて、ある（障がい者）施設から 2 名の出前講座の依頼があった。私は 10 年ほど前に障がい者スポーツの初任者研修を受けました。その資格を更新していくにはお金がかかることもあるため、初任者研修だけで終わってしまいました。障がい者スポーツに関する部分が（この計画には）少ないのではないか。障がいを持っている方でも出来るスポーツがあること、（市民の方々に）その知識が少ない。以前はボッチャやフライングディスクなどの障がい者の方向けの講座もありました。もっと障がい者の方向けの施策を充実させてほしい。

スポーツ少年団について、児童の数は変わらないがスポーツ少年団の数が減ってきている。武芸川のスポーツ部長は児童の運動量の減少について心配しており、いろいろなスポーツの体験できる行事（イベント）を計画している。そのようなスポーツ体験イベントに支援していただけたらと思います。

（副委員長）

現在スポーツ少年団の数は減少しており、野球のスポーツ少年団なんかは 1 校で 9 人集まらず複数校で 1 チーム作ったり、女子を入れてチームを作ったりしている。スポーツ協会に関して言えば、関市硬式テニススポーツ少年団では 1 年間を通していつでも体験入学を受け付けている。ただ誰に連絡すれば体験できるかが周知できていないところがある。スポーツ少年団の HP には各団体の連絡先があるのでそこに連絡していただければ体験できる。それは、硬式テニスのことだけかもしれませんが、スポーツ少年団の団員不足はほかの団も同じだと思われる。

（委員）

子どもたちも、機会があればワクワクドキドキしてやってみたいと思うだろう。それが体験だとか学校での活動が制約されている（コロナ過）が、そういった機会を増やしていきたい。学校で体験イベント等のチラシをもらった時に配布はするが、なかなか（コロナ過では）いけない人が多い。学校からも、保護者に（安全性について）十分説明し 2 学期からできる限りのことはしていきたい。学校もお話をいただければ協力していきたい。

（委員）

先日、倉知小学校の 3・4 年生を対象にグラウンドゴルフの体験会を行った。子どもたちも大変喜んでいて、今後もこのような活動を通して、スポーツ好きの子ども

たちを増やしていきたい。
（委員）

ネーミングライツにより、関市民球場が河上薬品スタジアムになり、関市総合体育館がアテナ工業アリーナとなった。ネーミングライツ料ももらってはいるが、その価値は妥当であるのかというのが１点。先日かわせみスタジアムの第３種公認にしなかった件についての記事が中日新聞に掲載されていたが、どうしてその公認費用が出せなかったのか。関市がスポーツ施設をどのようにしていきたいのかが見えてこない。十分に検討していく必要がある。公認の件に関しても全体像をきちっと示して（市民に）理解をしてもらう必要がある。また、個人的には関市民球場や関市総合体育館はそのままの名前を残すべき（ネーミングライツを行わない）だと思う。

（２）第２期スポーツ推進計画（令和４～１３年度）について　・・・【資料３，４】
事務局より説明
【意見・質問】
（委員）

スポーツ推進委員のインスタグラムでも月に１度のチャレンジ‼ザ　スポーツ・ゲームで土曜日にサブアリーナを開放しているのですが、そこで実施する軽スポーツのルールを紹介しています。また、先ほど障がい者スポーツの件で話がありましたが、コロナ過前までは施設の方が障がい者の方を連れて、チャレンジ‼ザ　スポーツ・ゲームに来てくれていた。障がい者にも障害程度があるので、専門の方がついていないと我々もサポートできない。土日に職員を派遣できないと理由もあり参加されなくなった。
（委員）

関市でこれ【資料 4】やった時に、どれだけの人が閲覧したかというのは再生回数で把握するのですか？
（事務局）

全体の数は再生数で把握できますが、関市外の方の閲覧回数もカウントされますので、スポーツ推進計画の実績値はアンケート調査で把握できた数値としたいと考えております。
（会長）

自分がすごく忙しかった時は、こうゆうもの（youtube）を見る時間もなく興味もなかった。問題なのは 20・30 代にどうやって PR するのかというところだと思う。
（委員）

正直こうゆうところ（youtube）に関市も入っていくのかと思った。こういう動画はネットに溢れている。ここに予算をつかってこの世界で見る値打ちのあるものを関市民向けに作るのはむつかしいのではないか。こういうのを作るためにはかなりの予算が必要とされることが予想される。逆に 20・30 代の方が務める関市内の中小企業の社長に「社内で１スポーツ運動やってください」と依頼するとか、スポーツ協会に協賛していただいている企業に「毎週水曜日はノー残業・１スポーツデー」にするとか社内アナウンスをして協力してもらうとかのほうが、効率がいいのではないかと思いました。
（委員）

スポーツ推進委委員でインスタグラムを始めたが、結構若い方が一般開放に参加してもらえるようになった。

（委員）

今後の関市全体で考えていただきたいことが２つあります。１つは令和５年度から国が取り掛からなくてはいけないとしている中学校の運動部活の地域移行の件について、若い世代の運動離れが進んでいるのは確実です。緑ヶ丘中・桜ヶ丘中・美濃中の合同チームでソフトボールの全国大会に出場しましたが、市をまたいでの合同チームでしか出場できないのが中学生の部活動の実情であります。緑ヶ丘中も桜ヶ丘中も生徒数はいるにもかかわらずこのような状態というのは、今の若い世代の運動離れに繋がっているような気がします。この部活動の地域移行は本当にスポーツに興味を持って「楽しむ」「親しむ」「やってみる」そんな子ども達をつくるための重要な部分です。これは関市スポーツ推進課の最大の懸案事項ではないかと思う。ぜひ積極的にイニシアチブをとって目標を作っていただきたいと思います。

もう１つは、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブの活動について、関市スポーツ協会 100 年史の原稿を読んで初めて知りました。河上薬品スタジアムで中部学院大学がとてもレベルの高いリーグ戦を行っています。アテナ工業アリーナでは国体の東海予選が行われました。色々なところで色々な事が行われているのにみんな知らないからもったいないと思うことがよくある。ぜひ興味のある人が見る（体験する）ことができるように、情報発信を上手にやっていただきたいと思いました。

（事務局）

情報発信については、大きなイベントは行っていますが小さなものは行っていないので、その情報発信の在り方についても今後考えていきたい。

【その他の事務局提案】

（事務局）

関市としてラグビーに力を入れている部分はありますが、近年、関市アーチェリークラブが目覚ましい活躍をしています。アーチェリーを地域ブランドに加えてはどうか。委員の皆様のご意見をいただきたい。

（委員）

基準がないと難しいのではないか。今アーチェリーの結果が出てはいるが結果が出なくても地道に続けている（競技）団体もある。基準を設けて毎年いろんな団体に機会を与える必要があるのではないか。

（事務局）

もちろん、県の強化指定選手も毎年基準を設けて指定している。市としても１つの例としてアーチェリーを上げましたが、すべての競技に対して支援は行いますが、現状結果の出ているのはアーチェリーなので、競技スポーツとしてのばしていきたい。他のスポーツもそのレベルに持っていきたいとは思う。

６．閉会あいさつ（ 副会長 ）

（副委員長）

それぞれの立場があるので、一枚岩とはいかないかもしれませんが、皆さんのお顔を拝見しながら、自分たちスポーツ少年団もいろいろな団体と関係があることを再認識しました。それぞれの立場でいろいろな接点を持つことが、関市のスポーツ

をよりよくしていくことに繋がっていくと思う。皆様も次の会合までにいろいろな体験をされると思いますが、関市のスポーツの発展にご協力をお願いします。